



兄と妹、それぞれの“これから”が交差するとき 浮かび上がる、お互いを想う気持ち

兄と妹は、まるで“平行”と“垂直”。交わらないようで、確かに支え合って立っている――。『平行と垂直』は、自閉スペクトラム症の兄・大貴と、結婚を控えた妹・希が、人生の節目にそっと触れ合いながら、自分たちの“これから”を見つめ直す物語だ。清掃の仕事に就き、周囲のサポートを受けながら自立した生活を送る大貴（安田章大）。カウンセラーとして働きつつ、兄を支えることを当たり前としてきた希（のん）。変わらないと思っていた日常は、希の結婚話をきっかけに静かに揺れ始める。支えてきたつもりの妹、支えられていると思っていた兄。ふたりは初めて、お互いの存在がどれほど自分を形づくってきたのかに気づいていく。人生の転機は、過去と未来の両方を照らし出す。そこに浮かび上がるのは、言葉にしなくても確かに続いてきた“きょうだい”の絆だ。






安田章大、初の企画作品で光る 俳優たちの誠実な演技と確かな演出

企画段階から参加した安田章大は、山野海によるオリジナル脚本に深く心を動かされ、大貴役に真摯に向き合った。専門家のレクチャーを重ね、丁寧に役を掘り下げたその姿勢は、作品の核となる“人を想うこと”の真実味を支えている。一方、希を演じるのんも、実際に障がいのあるきょうだいを持つカウンセラーから話を聞き、役に息を吹き込んだ。監督は『毎日かあさん』、『マエストロ!』などで温かな人間ドラマを紡いできた小林聖太郎。大阪・堺を舞台に、ささやかな日常の中に潜む“支えること／支えられること”の揺らぎを、やわらかく、確かな眼差しで描き出す。そして、物語を締めくくるのは、安田章大が推薦した浮（ぶい）による書き下ろしの主題歌「話そう」。安田章大もコーラスに参加し、これからも続いていく日々に余韻を残す。忘れがちな思いやり、気づかぬうちに交わしている優しさ。本作は、そんな日常の奥にある小さな光をそっとすくい上げる。胸が温かくなる今年最高の感動作。



前売券 1,200円　発売予定日／12月21日～（販売所により発売日が異なる場合があります。）
（当日券／一般:1,500円、高校生以下:800円、悠悠映画塾会員は1,100円）

前売券販売所 ザ・ヒロサワ・シティ会館、ひたちなか市文化会館、茨城映画センター
【前売券予約電話番号】茨城映画センター内：090-2641-3156
（土・日・祝日を除く 午前10:00～午後5:00）

●感染症対策の為、発熱や体調不良時には来場をお控えいただきますようお願いいたします。またご入場の際等、適宜手指の消毒にご協力をお願いいたします。

チラシ持参で一般当日券1,300円に割引

※上記二次元コードの予約フォームより前売券のご予約が出来ます。